

バッテリー・カットオフスイッチ (R50/5-R100RS-RT-GS-R-MYS) ¥15,000

いよいよ本格的な冬将軍の到来です！ BMW 乗りにとってはいやな季節がやってきました！ 今日は久々の好天！ いざツーリングへ！ ところが大排気量の BMW は乗車機会が少ないと、知らないうちにバッテリーがあがっていることも多いのです！ いざ始動となるとカタカタと元気の無い虚しい音だけが返ってきてがっかりした経験のある方も多いことでしょう！

カウル付きモデルの時計や盗難防止装置が装着されていない限り構造上、電流は流れていないはずなのですが、なぜか徐々に電圧は低下してしまいます。それが、せっかくのツーリングの楽しかるべき朝を台無しにしてしまうことが多いのです！ ベテランライダーさんなら経験上バッテリーターミナル（マイナス）を外しておくことで放電が防げると、毎回儀式のようにスパナを持って作業をしています。しかし、シートを開けるためパニアケースを外したり、ナットが何処かに落ちたりと、思わぬ時間が掛かったりします。

これまでも自動車用の大型の遮断スイッチはありましたが、設置スペースの限られる二輪車には不適でした。しかし、最近、小型のタイプが開発されたのです！



スイッチ設置位置



運転の邪魔になりません

ダイヤルを締めこむと導通し始動スタンバイです。緩めると不通となりバッテリーは回路から隔離されます。ダイヤルは外れないので走行中に脱落したり、イタズラの心配もありません！

バッテリーは放電状態で放置するとサルフェーションなどにより充電不能・回復不能となり寿命を迎えてしまいます。しかし、この装置があれば回路に流れる放電を抑えることでバッテリー寿命を延ばします。あなたも、この遮断スイッチを利用して、冬の朝の不愉快な経験にさようならを告げてはいかがでしょうか？

空冷大排気量の R シリーズは油膜維持のため 20W50 など高粘度のエンジンオイルを使用しています。そのため低温時にハチミツ状になっていて始動困難な状態にあります。交換したてのフレッシュオイルではなお更です。気温の高い夏場では化学反応によりバッテリーの自己放電が多くなり始動以前にバッテリーはバテバテの状態におかれています

FREUDE AM FAHREN

CRIMECA